

活動指導案

実践団体名 日本防災士会 奈良県支部

■基礎データ

2009-47

① タイトル

家具等の転倒、飛来・落下防止対策を学ぶ

② 活動の概要

講演及び実技によって家具の転倒防止対策の普及率の向上を図る

③ 目標・ねらい

自分と家族の被災防止 / 地域の犠牲者の減少

④ 活動で上げることが
できる力・能力

理解度を高める / 各家庭での推進

⑤ 対象者（受ける側）

家族→地域住民（自主防災会の会員）

⑥ 活動・作業形態

講習会・実技訓練、各家庭

⑦ 準備するもの
（道具、材料等）

講習会資料、固定方法の見本、写真集、工具・金具・脚立・踏み台・支持材・取り付けビス・敷マット等の展示、訓練用の材木・テストピース等

⑧ 所要時間

2時間（講演40分＋実技1時間20分）、質疑・応答30分

⑨ 必要なマンパワー
（実施者、役割、人数）

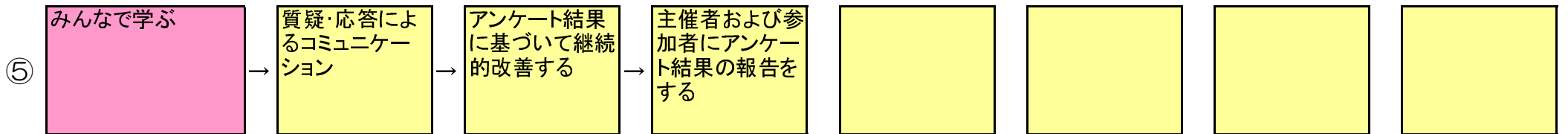
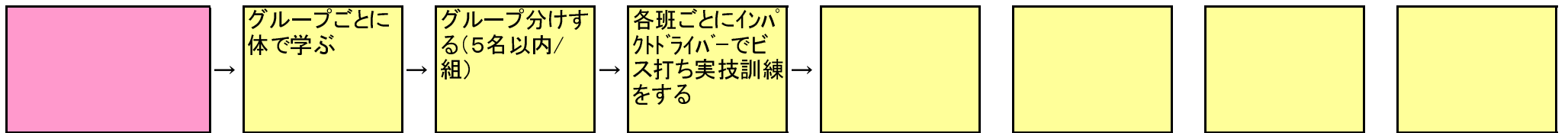
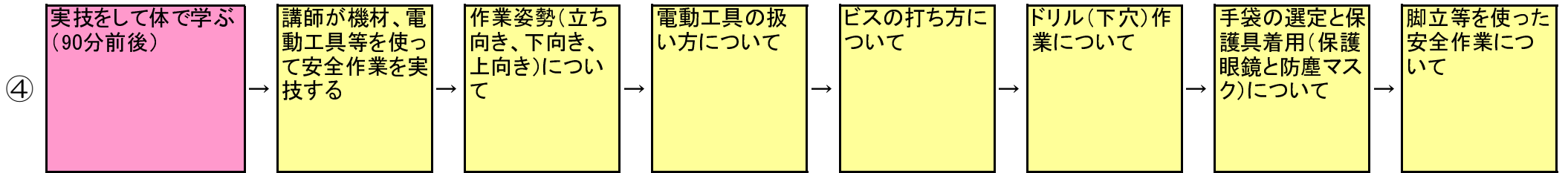
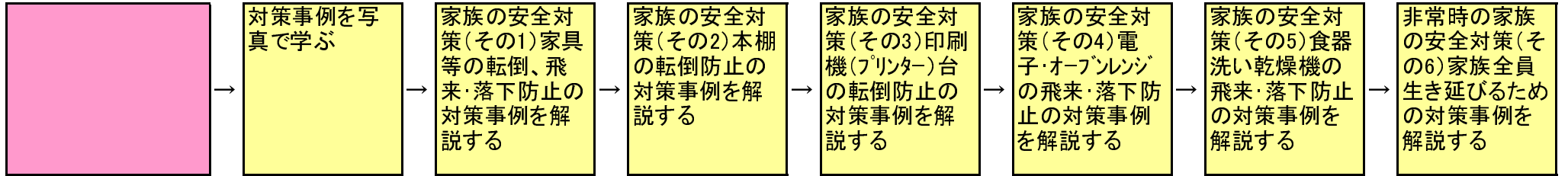
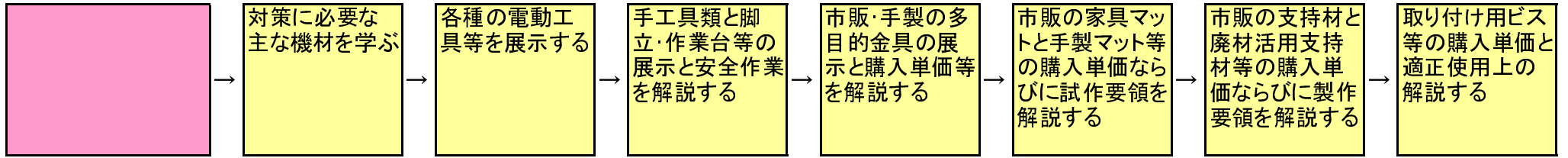
2人（実践経験あり）

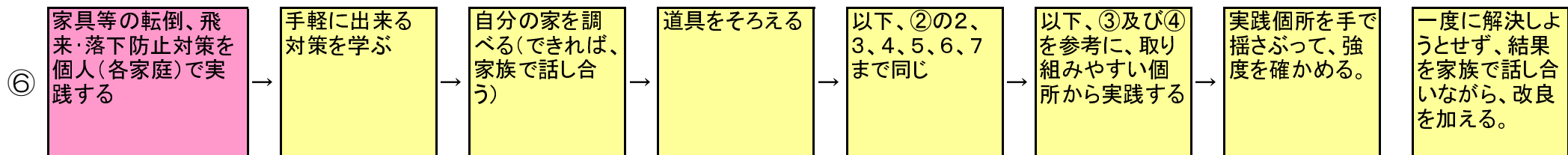
⑩ 必要経費
（所要額、財源）

工具は持ちより、金具・材木は持ちよりか調達 3万円

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

講演数と研修内容の継続的改善

②その他の評価

アンケートによる問題点の抽出とその対策 / モデル地区ができれば理想(転倒防止対策普及率の向上)

■備考・その他(活動のコツなど)

①活動のコツなど

- ・まず、自分の家で取り組む
- ・説明はわかりやすく、カタカナ・英語は少なく
- ・「家具転倒防止をしていないとどうなるのか」について目と体で学ぶ
- ・できれば、個人単位の取り組みより、自主防災会や自治会単位で取り組むのが望ましい

②参考資料等

東京消防庁消防科学研究所の動画、日本 防災士会のHP(対策の前後の動画)、三郷町 秋留地区自主防災活動

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名

三郷町 秋留地区自主防災会

■基礎データ

2009－48

① タイトル

アクションプランで自主防災活動をPDCA展開させる
(※P(プラン)計画、D(ドゥ)実行、C(チェック)分析・評価、A(アクション)見直し・改善)

② 活動の概要

自主防災活動アクションプランを年度初めに作成し、計画的に事業(活動)を実施し、終了した事業毎に評価を行い、必要に応じて見直しを行う。年度末には当該年度のアクションプランの実績をとりまとめ、次年度のアクションプランの計画に反映させ、目標達成までのプロセスを明確にする。

③ 目標・ねらい

自主防災活動の目標を設定し、計画の実行、目標の達成、秋留地区の防災意識・防災力の向上を図る。

④ 活動で上げることができる力・能力

①アクションプランを通しての中・長期的な防災活動 ②問題点の抽出と創意工夫 ③活動のマンネリ化予防

⑤ 対象者(受ける側)

①自主防災会の会員や地域住民、②講習・講演会の受講者

⑥ 活動・作業形態

自主防災会役員等によるアクションプラン作成とその進行管理

⑦ 準備するもの
(道具、材料等)

パソコン、コピー用紙、デジタルカメラ、活動に必要な資・機材

⑧ 所要時間

①期初のアクションプラン:3時間 ②活動毎の記録作成:2時間 ③アンケートの作成と分析・評価:3時間 ④次年度のアクションプラン:2時間

⑨ 必要なマンパワー
(実施者、役割、人数)

防災リーダーおよびメンバー

⑩ 必要経費
(所要額、財源)

年間経費: ¥ 50,000- (電気代、コピー用紙代、インク代、ガソリン代、活動毎の資・機材費、その他雑費) ※コピー代は自治会負担

■活動の流れ





■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

①中・長期的にみた地区又は地域防災意識と防災力の変化(5ヵ年の変化) ②参加・賛同者の増加

②その他の評価

・メンバー同士や地区・地域住民のコミュニケーション意識の変化 (講習・訓練等は習熟度や成長効果の評価ができればベスト)

■備考・その他(活動のコツなど)

①活動のコツなど

①重点活動項目(大項目)とその推進内容(中項目)の策定は地区・地域環境に即した視点でメンバー間で協議して決める。(地域の弱さ加減の抽出から行うと入り込み易い) ②アクションプランに沿って実行し、途中で新規要望があれば採用する ③途中で挫折した場合はその理由を付し変更する ④目標は数値で捕らえる ⑤活動毎にアンケートを募る ⑥可能な限り問題点や悪さ加減を抽出し客観的に分析・評価する ⑦会員から活動案を募りプランニングする ⑧意識や習熟度の向上を目指すべきものは継続実施する ⑨直接人命に関わるものは最優先に継続実施する ⑩普通救命講習会や消火訓練等は他の地域からも参加募集しコミュニケーションの輪を広げる

②参考資料等

①方針管理(PDCA) ②特性要因(事実の確認)[人的・設備的・作業的・管理的] ③5W1Hによる検討法 ④KYT(危険予知トレーニング)[危険・有害の予測と対策の4ラウンド法]

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

[補足説明]

◇ アクションプランって何？

アクションプランとは、具体的に何でしょう？よく「アクションプラン」＝「事業計画」という声を耳にしますが、それだけでメンバーは動いてくれるでしょうか？目的・目標を達成するために「いつまでに」「何を」「どうするか」を決定し、それをメンバーで共有し、進捗を把握することで、目標達成までのプロセスを明確にする。それがアクションプランだと言われています。

◇ 何のためにアクションプランをたてるの？

計画は実行するためにあります。ここが重要なポイントです。地区会員全員で共有し、参加者全員が目的・目標達成までに毎日何をやるかが分かるレベルまでになるとベストですが秋留地区の場合は主要メンバー2名でやっています。防災士を認証取得し、秋留地区自主防災会が結成・設立してからスキルアップ活動と内外のアピールには積極的に実施し、防災士認証取得3名増員してきました。そのお陰で、今では地区内外の友人・知人15名、連合自治会長、単一自治会長、町総務課が力強い協力者となって頂いています。

◇ どうやって作成したらよいの？

アクションプランには二つのポイントを明確にしておく必要があると思います。

1. 視点を明確にする。

秋留地区の目的/目標は：地区住民全員の被災防止・減災/5カ年、視点は：秋留地区の防災意識・防災力の向上としています。

それを達成するために視点を重点活動項目(大項目)の4つの柱にしました。

2. 指標を明確にする。

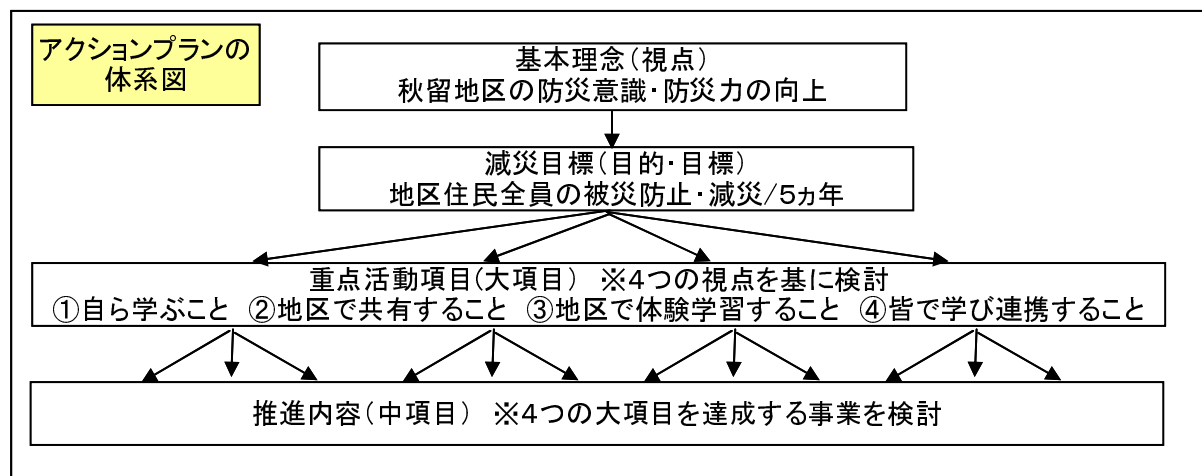
ここでは、①自ら学ぶこと ②地区で共有すること ③地区で体験学習すること ④皆で学び連携することに視野をおいています。それを更に具体化させるために進捗度(進み具合)を可能な限り数値化するようにしています。1つ目の柱：防災リーダーのスキルアップのように予定の立たないものは%で表現にし、積極的に参加するようにしています。また参加した結果地区として大事な情報は自主防災活動ニュース発行で水平展開するようにしています。

◇ 難しく考えない

アクションプランという横文字に難しく考えないで要は「計画・実行表」なのです。何のことはありません。計画したことを1つ1つ実行し、その結果がどうだったか？皆にとって良かったのか？悪かったのか？今後その悪さ加減をどのように見直し修正すれば良いか検討し、客観的に分析・評価をして改善・対策を繰り返して行けばよいのです。そうすることによって必ず良い結果が得られると確信します。(羅列に書いた計画表だけでは決して良い結果が生まれません。「絵に書いた餅」となり、決して進展しないと思います。

◇ 秋留地区自主防災活動の二つ課題と今後の構想

秋留地区は概ね210人/55世帯「60歳以上:80人(38%)、13～59歳:105人(50%)、13歳未満25人(12%)」の構成になっています。これまでの防災活動の中では40～75歳の高齢者参加が多く14～30歳の中間層の参加が比較的少ないのが一つ目の課題です。二つ目は奈良県は災害を受けない。特に秋留地区は増水による河川の氾濫とは無縁。楽観的なところが根強く残っていることです。中間層の親御さんたちは働き盛りで、しかも休日返上出勤もあり、なかなか参加出来ない事情があるかと思っています。そこで今後の構想として小学、中学、高校の課外実習に取り上げてもらえないかという考えです。そうすることによって忙しい親御さんに代わって授業の一貫として学び、家族のコミュニケーションにも功を奏するかと期待しているところです。一方、老人福祉施設、幼稚園、やAED設置施設等にも赴き環境に即した内容の課外実習の構想も練っているところです。



活動指導案

実践団体名 日本防災士会 奈良県支部

■基礎データ

2009-49

① タイトル

自主防災活動ニュースを発行する

② 活動の概要

自主防災活動の広報・啓発(自主防災会継続実施の秘訣)

③ 目標・ねらい

自主防災活動を広く知ってもらう / 防災情報を共有する

④ 活動で上げることが
できる力・能力

防災意識の向上

⑤ 対象者(受ける側)

自治会、自主防災会の構成員

⑥ 活動・作業形態

1ヶ月1回発行が望ましい→最低年2回の発行を目指す

⑦ 準備するもの
(道具、材料等)

パソコン・デジカメ・プリンター・紙

⑧ 所要時間

2~5時間

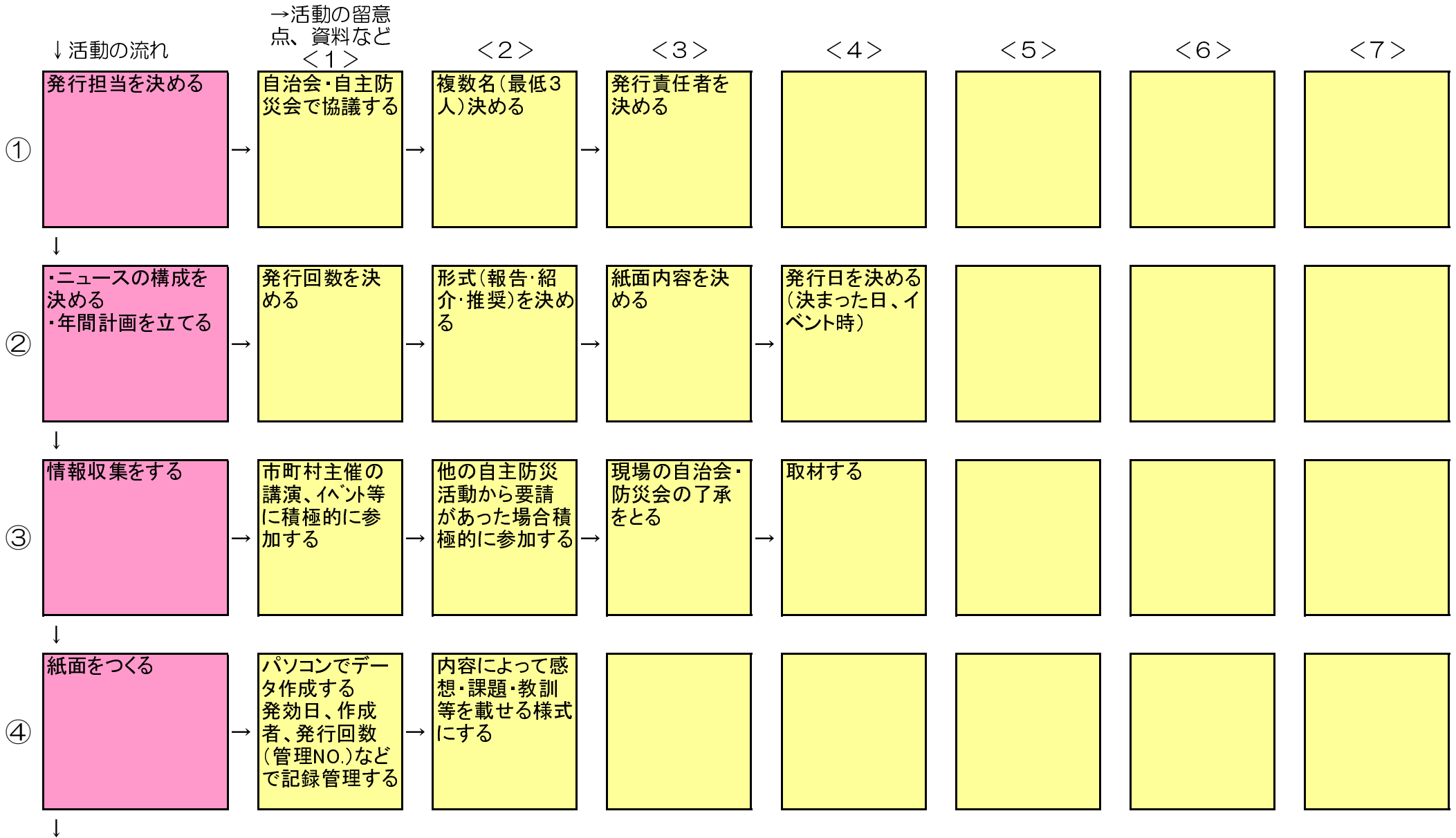
⑨ 必要なマンパワー
(実施者、役割、人数)

最低3人

⑩ 必要経費
(所要額、財源)

インク代・紙(個人負担の場合が多い)、コピー代(カラー50円×枚数 コンビニの場合)

■活動の流れ





■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

年2回発行する / 自主防災意識の向上

②その他の評価

中・長期的に発行したニュース内容からアンケートをとり防災意識の分析・評価・改善する

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

市町村主催の講演会等に積極的に参加する。イベント等にも積極的に参加する。地域の為になる事案を取り上げる（出来れば対策や教訓等を解説）

②参考資料等

奈良県民だより、市町村発行の公報、諸官庁の防災に関する情報、ホームページ等の情報

※ 活動指導案作成のための準備物：①写真（活動の代表的な写真、流れがわかる写真等）、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 日本防災士会 奈良県支部

■基礎データ

2009－50

① タイトル

タウンウォッチングと防災マップづくり

② 活動の概要

実際にパトロールを行い、防災地域力の理解を深め共有する

③ 目標・ねらい

地域の危険箇所と地域の資源を再確認し、地域を知って減災を図る

④ 活動で上げることが
できる力・能力

地域力、地域の防災・防犯能力の向上を図る

⑤ 対象者（受ける側）

自治会・自主防災会の防災士、構成員並びに有志

⑥ 活動・作業形態

地域内のパトロールとワークショップによる指摘事項のまとめ

⑦ 準備するもの
（道具、材料等）

地図、ノート、ビニール、マジック、付箋、シール、筆記用具、デジタルカメラ等

⑧ 所要時間

地域内パトロール2時間、ワークショップ1時間

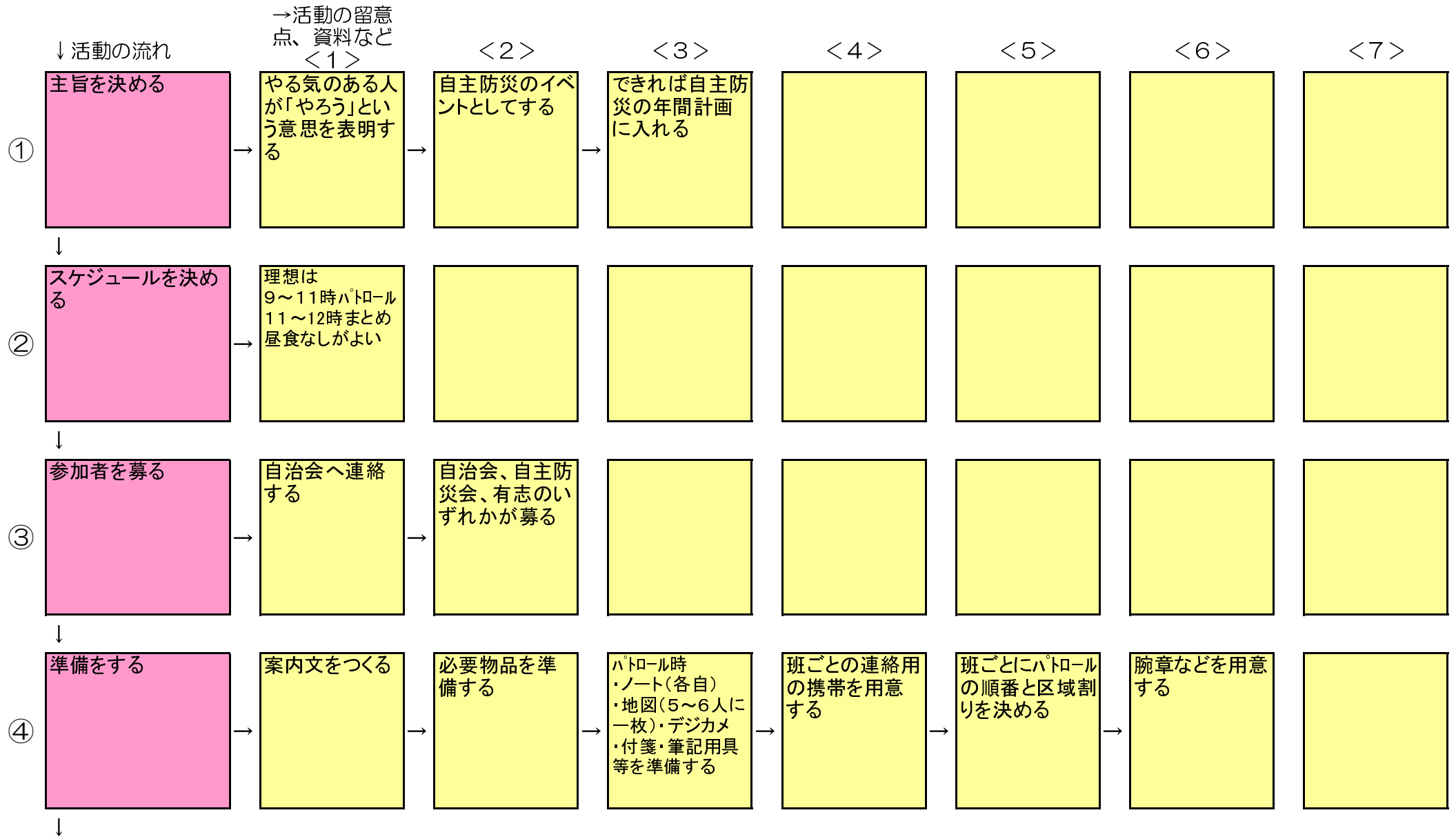
⑨ 必要なマンパワー
（実施者、役割、人数）

参加者3～5人で1班×各班に班長、スタッフ:3～5人

⑩ 必要経費
（所要額、財源）

5000円程度

■活動の流れ



⑤

パトロール時の被災想定と着眼点を決める

「危険箇所」を知る

地域材(人材、企業、資材)を発見する(具体的に例を示す)

地震、水害、台風、火災、犯罪が起こった場合の被災想定をする

災害時に役立つものや安全な場所にも着眼する

⑥

パトロール時の注意事項を周知する

指摘事項はわかり易く表現する

指摘対象物はデジカメに記録する

交通事故に注意する

不法侵入にならないように

犬に気をつける

⑦

パトロール後、まとめを行う

班ごとに報告する
重複した内容はわかり易く1つにまとめる

・地図にビニールをかぶせ、押しピンでとめる
・地区の住宅地図
・ビニール、マジック、付箋(赤・黄・白い書き込み用)

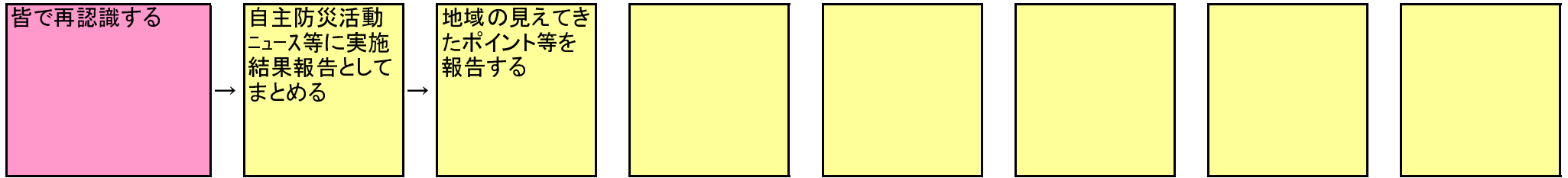
・マジックと付箋で危険箇所を表示する
・資材があるところ
・グリーン「井戸」
・Pグリーン「電動井戸」
・白い付箋「有機材溶剤」
・付箋「要援護者」
・白い付箋「崖崩れ、倒壊家屋、倒木、消火ホース格納庫、カーブミラー、街灯、警察、幼稚園、指定/一時避難所、AED、技術者、専門家、会社、空き地、通行可能な道路標示

・全員で討議する
・その際には個人情報に配慮し公開しない

避難所として使えるかどうか判断する

↓

⑧



■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

どれだけの危険箇所の見分け(現状把握)ができたか

②その他の評価

地域住民・メンバー同士のコミュニケーション、防災意識の向上

■備考・その他(活動のコツなど)

①活動のコツなど

パトロール時のメモは具体的「〇〇の△△が◇◇なので××する。」に表現する。頻度と結果の重大性も考慮してパトロールする。個人情報に配慮、交通事故に注意、日頃の人間関係、活動へのクレームは気にしない、反対意見をしないで代案等がないか協議する。パトロールを交代するとまた違った新発見する場合がある。危険箇所のは正には踏み込まない

②参考資料等

危険予知活動(KYK)、市町村の地域防災計画書およびハザードマップ等

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等